

## 第2学年 保健体育科学習指導案

令和3年10月20日 水曜日5校時  
第2学年1組(男子21名、女子17名)  
場 所 三股町立三股中学校体育館  
指 導 者 森山 三幹男

### 1 単元名 球技(ゴール型 バasketボール)

### 2 単元の目標(第1学年及び第2学年の2学年分) ※ ( ) は1学年で取り上げる内容

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。  
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようになる。 (知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、(作戦などについての話し合いに参加しようとする事、) (一人一人の違いに応じたプレイを認めようとする事、) 仲間の学習を援助しようとする事などや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。

中学校では、これらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。

ゴール型とは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ゴール型の学習においては、ゴール型の種目に共通する動きを身に付けることが大切である。

第1学年及び第2学年では攻撃を重視し、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにする。

### 4 生徒の実態

#### (1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級の生徒は本年度、体づくり運動、陸上競技(短距離走)、水泳、器械運動(マット運動)の学習を行っている。球技(ゴール型)の種目は昨年度サッカーを経験しているが、空いた空間に走り込むなどの習得については不十分である。部活動の加入状況は38名中、運動部の生徒は25名、学校外でスポーツをしている生徒は1名であり、そのうちバスケットボール部の生徒は男子4名である。事前アンケートによるとバスケットボールを「好き」と答えた生徒は90%である。その理由として、「ボール運動が好きだから」や「チームで競い合うことができるから」という意見があった。

#### (2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」においては、小学校時からバスケットボールを学習しており、技術の名称について知っている生徒も多い。しかし、パス・ドリブル・シュートといった個人的技能の習得は不十分である。特にボール操作とシュートを苦手としている生徒が多い。また、ボールを持っていない時の動きやマンツーマンで守る事がよく理解できず、守備や攻撃の際にボールに集まってしまうこともある。

「思考力、判断力、表現力等」においては、各領域で課題解決のためにはどうしたらよいかを考えたり、話し合ったりする活動に取り組んできた。また、どの領域でも友達の動きのよさに注目して、動きのコツをつかもうと心がけてきた。

「学びに向かう力、人間性等」においては集団の中の一員として意識して行動できつつある。体育の学習に関しては一生懸命取り組む生徒が多く、みんなで盛り上げるために友達とコミュニケーションを図ったり、プラスの言葉かけの良さに気づいたりできる生徒も増えてきている。また、生徒の同士で声をかけ合ったり、考えたことを交流したりするなど、互いの考えを認め合いながら学習に取り組んできた。

### (3) 体力の状況

本年度の新体力テスト(5月実施)の結果から、本学年の男子で全国平均(2019年度)を上回っているのは「反復横跳び」のみである。「反復横跳び」以外の項目では、「ハンドボール投げ」「20m シャトルラン」が平均並みでありそれ以外は下回った。女子においては、全国平均(2019年度)を上回っている項目はなく「握力」「20m シャトルラン」「長座体前屈」が全国平均並みでありそれ以外は大きく下回った。この結果から、男女ともに総合的な体力向上を目指した取組が必要である。

(本学級生徒の新体力テスト総合評価別人数)

段階	男子					女子				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	2	6	9	3	1	2	4	8	2	1
割合(%)	10	28	42	15	5	12	24	47	12	5

本学級は、A・B段階の生徒が、男子38%、女子36%である。一方、D・E段階の生徒は男子20%、女子17%である。学年の結果は全国平均よりも低かったが、本学級の生徒は男女ともに比較的運動に優れている生徒が多い。

## 5 学習を進めるに当たって

「仲間と連携し得点を競い合う」という攻防の楽しさに触れさせたい。そのためにドリブル、パス、シュートといった基礎的な技能を確実に身に付けさせる。また、ボール操作だけでなく、空いている場所に動くなどボールを持たない動きについても学習を進め、チームで連携して攻防を楽しめるようにしたい。そこで、学習のねらいを達成するために次のような手立てを講じる。

まず、単元前半ではパス、ドリブル、ディフェンス、シュートの基礎的な技能の習得を図る。特に「仲間と連携し得点を競い合う攻防の楽しさ」を全員が味わうには、パスを繋いで相手を崩しシュートまで繋げることが大切だと考える。そこで、パスとシュート技能の習得に力を注ぐ。パスはチェストパスを軸として学習を行い、守備者の位置によってバウンドパスを利用することが有効であることをポイントとして押さえる。シュートは左右のゴール下からのシュート指導に力を注ぐ。その際バックボードの活用法をポイントとして押さえ、レイアップシュートなどの指導にも繋がられるようにする。

単元後半では、「パスを軸としたゲームを展開すること」を目標に学習を進めていく。7時間目のゲーム後の振り返りでパスの出し手の動きとボールを持たない人の動きに着目させ、この2つの動きを今後の課題とすることを共有する。7～9時間目はパスの出し手の動きとボールを持たない人の動きに関する練習をスキルアップテキストから抽出し学習を進める。そして10時間目以降の各チームでの選択練習で既習のスキルアップテキストから練習方法を選択できるようにし、単元の終わりにはリーグ戦を行う。

また、カリキュラム・マネジメントの視点から、「保健」「体育理論」「道徳」との関連を図った指導を充実する観点から「保健」における傷害の防止、「体育理論」におけるスポーツへの多様なかわり、「道徳」における公正、公平、社会正義などの内容との関連を図り、教科的横断的な学びが実現する指導を進めていきたい。

そこで本時の指導に当たっては、はじめの段階で健康観察や準備運動を安全に留意しながら行うよう指導する。また、導入段階でのゲームを行った後に生徒から意見を聞いて本時のねらいを確認する。「なか」では班活動を中心にゴールしたシュートの練習を行っていく。その中でスキルアップテキストやタブレットを活用して運動の行い方のポイントや仲間の課題を見付け仲間に伝え合う活動を行っていく。常に生徒が称賛したり、助言したりする姿を観察して評価し、すぐに手立てを打っていきたい。「まとめ」の段階では運動の行い方のポイントや仲間の課題を見付け仲間に伝えたことを書き出し発表することで意見の交流を行いたい。

	知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
全ての単元の評価規準	<p>○知識</p> <p>◎球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>◎球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>●球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>●ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>・マークされていない味方にパスを出すことができる。</p> <p>・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>◎パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> <p>●パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p> <p>◎ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>●提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>◎提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>◎練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p> <p>・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>◎球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>◎マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>・作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p> <p>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p> <p>●練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>◎健康・安全に留意している。</p>
単元の評価規準	<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>③パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p> <p>④ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p>	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>④健康・安全に留意している。</p>

7単元の学習計画及び評価計画

時間		1	2	3	4	5	6(本時)
指導内容	知識	①特性やかかわり	③体力要素	②ポイント	②ポイント	②ポイント	
	技能			②パス・ドリブル	④デフエンス	①シュート	①シュート
	思・判・表						①出来映え伝達
	学・人	④健康・安全					
学習の流れ	0	1 オリエンテーション	1 集合、挨拶、健康観察	1 集合、挨拶、健康観察	1 集合、挨拶、健康観察	1 集合、挨拶、健康観察	1 集合、挨拶、健康観察
	10	2 ランニング、準備運動	2 ランニング、準備運動	2 ランニング、準備運動	2 ランニング、準備運動	2 ランニング、準備運動	2 ランニング、準備運動
		ねらい1 基本的な技能の向上を図ろう。					
	20	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認
		4 試しのゲーム	4 ドリブルとパス練習	4 デフエンスの練習	4 スキルアップテキストを活用したゴール下シュートの練習	4 スキルアップテキストを活用したゴール下シュートの練習	4 スキルアップテキストを活用したゴール下シュートの練習
	30	5 ドリブルリレーやパスリレー	5 ドリブルやパスに対するデフエンスゲーム	5 シュートゲーム	5 シュートゲーム	5 シュートゲーム	5 シュートゲーム
	40	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認
50	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け	
評価	知識	①	③	(②)	(②)	②	
	技能			②	④	①	(①)
	思・判・表						①
	態度	④					
準備物		学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC
カリ・マネ	体育理論	スポーツへの多様なかかわり					
	保健	傷害の防止					
	他教科						

時間		7	8	9	10	11	12
指導内容	知識						
	技能	③空いた場所	③空いた場所	③空いた場所			
	思・判・表	②練習選択				③よい取組伝達	
	学・人		③補助		①積極的な取組	②フェアプレイ	
学習の流れ	0	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動	1 集合、挨拶、健康観察 2 ランニング、準備運動
		ねらい2 ゲームにおいて、パスを軸とした攻防を展開しよう。					
	10	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認	3 学習のねらい、流れの確認
	20	4 スキルアップテキスト活用した練習 5 ゲーム	4 スキルアップテキスト活用した練習 5 ゲーム	4 スキルアップテキスト活用した練習 5 ゲーム	4 スキルアップテキスト活用した練習 5 ゲーム	4 リーグ戦	4 リーグ戦
	30						
	40	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認
	50	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け	7 片付け
評価	知識						総合的な評価
	技能	(③)	(③)	③			
	思・判・表	②				③	
	態度		③		①	②	
準備物		学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カードボール ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC	学習カード ボール PC
カリ・マネ	体育理論						
	保健						
	他教科					29 クロスプレー（公正、公平、社会正義）	29 クロスプレー（公正、公平、社会正義）

8 本時の学習(6/12)

(1) 本時の目標

- 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の学習評価

- 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。(思考・判断・表現)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【A・B・Cの例】	「努力を要する」 状況と判断される 生徒への手立て
はじめ 10分	1 集合、挨拶、健康観察を行う。	○ 安全に運動できるように声かけするとともに、顔色等を観察する。		
	2 ランニング・体操を行う。	○ けがをしないようにストレッチする部位を意識するよう助言する。		
なか 30分	3 シュートゲームを行う。	○ 今までの学習事項を意識させ取り組ませる。		
	4 ゲームの課題を基にし、生徒の意見から本時のねらいを確認する。			
仲間の動きを具体的にほめたり、助言したりしよう。				
なか 30分	5 ゲームを振り返り課題に応じたシュート練習を行う。 ・ ゴール下シュートを確認する。 ・ スキルアップテキストを活用する。 ゴール下シュート	○ 運動の行い方やポイントを確認させる。 ○ 活動する生徒、撮影する生徒、補助をする生徒と役割を明確化して活動させる。 ○ タブレットで動画を撮影し、動きを確認させる。	○ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝える。(観察・タブレット) 【Aの例】 仲間の課題や出来映えをポイントやつまずきの事例を添えるだけでなく、動きを交えるなどわかりやすく他者に伝えている。 【Bの例】 仲間の課題や出来映えをポイントやつまずきの事例を添えて他者に伝えている。 【Cの例】 仲間の課題や出来映えだけを他者に伝えている。	提示された動きのポイント等を振り返らせる。  タブレットに線をひいてポイントをおさえさせる。  称賛する時にもポイントを添えて伝えるように助言する。
	6 仲間の動きを具体的にほめたり、助言したりする。	○ 練習中でも具体的にほめたり、助言したりするよう声をかけする。 ○ 全員が伝えることを行うように指示する。		
	7 シュートゲームを行う。	○ タブレットで動画を撮影させる。		
まとめ 10分	8 本時の振り返りを行う。 ・ 動画などを活用し、振り返りを行い、他者に伝えたことを学習カードに記入し発表する。	○ 本時のねらいに迫るために、ほめたり助言したりする際のポイントを考えさせる。		
	仲間の動きをほめたり、助言したりする時は、動きのポイントやつまずきの事例などを添えること			
	9 挨拶を行う。			